



笑顔で伸びやかに夢に向かって

R6, 1, 15(月)

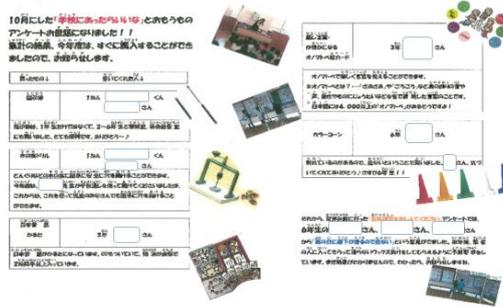
大好きです 砥用小！

美里町立砥用小学校学校だより



「わたしがつくる みんなでつくる『大好きです 砥用小！』の実践！

本校事務主査が、全校集会で子供たちに「『学校にあったらいいな』と思う物が何かないか」というプレゼンテーションを行い、アンケートを取りました。アンケートを集計した結果、「指示棒」(1年生から6年生と理科室、英会話教室)、「木の実ドリル」(どんぐりなどの木の実に簡単に安全に穴をあけることができます。今年度は、業務支援員の先生に千枚通しを使って開けていただきました。これからは、「木の実ドリル」を使って子供たちでも簡単に穴をあけることができます)、「日本昔話かるた」(日本昔話が「かるた」になっています。CDも付いていて、物語が全部で2時間半以上も入っています)、「話し言葉が豊かになるオノマトペ絵カード」(オノマトペの言葉を、絵カードを使ったゲームで楽しく覚えることができます)、「カラー・コーン」(割れているのがあって危ないという子供の気付き)を購入しました。このほか、「危険箇所を教えてください」というアンケートで、子供たちからあった「雨の日に廊下が滑るので危ない」という意見から、来年度、業者による滑らないワックス掛けをしてもらえるように予算要求をしています。子供たちの視点から「学校にあったらいいな」という物を購入したり、危ないと思うところの改善をしたりする活動は、文字通り「わたしがつくる みんなでつくる」です。子供たちが「自分たちの学校」をつくっています！上に紹介した写真は、事務主査が作成し職員室前廊下に掲示しています(掲示した用紙には、買った物を書いてくれた子供たちの名前も入っています)。来校の際には、ぜひご覧ください。



文字通り、「わたしがつくる みんなでつくる『大好きです 砥用小！』」

「プロから学ぶ ～プロから学べる有り難さ！～」

子供と親の相談員の先生が県内の民間放送局の報道部で仕事をされていました。そこで、5年生社会科「情報化社会と産業の発展」の学習で、ゲストティーチャーとして報道部で仕事をされていたときのことを子供たちに話していただきました。



熱心に話に聞き入る姿は「かっこいい！」

記者・番組ディレクターの仕事で大事なこと

- 企画のテーマを絞る「伝えたいこと」はひとつにする。
あれこれ欲張ると見ている人に伝わらない。ひとつに絞ることで「伝えたいことが伝わる」。
- テレビの前には、様々な人がいることを忘れない。
誰にでもわかる易しく丁寧な言葉遣い。様々な人(障がいのある人など)への配慮を忘れない。

□の内容について、具体的に、また、熊本港からの全国中継、しかも生放送で、マイクをもって報道された際のエピソードを交えながら、緊急事態(視聴者の命を一人でも多く守る)、食レポ(美味しさを伝える)、通常報道(正確に伝える)の仕方の違いについてなども話していただきました。長きにわたって生業とされていた方の話を聞くことができるって幸せです。